「高松盆栽の郷」基本構想（案）についてのパブリックコメント実施結果

　本市では、平成２９年７月３日から平成２９年７月２４日までの期間、「高松盆栽の郷」基本構想（案）についてのパブリックコメントを実施しました。寄せられた御意見及びこれに対する本市の考え方を以下のとおりまとめましたので公表いたします。

１　意見総数　１５件（８人）

２　寄せられた御意見及びこれに対する本市の考え方

　　※提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化若しくは文言等の修正をしています。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| 1 | 需要拡大のためにＰＲに力を入れた方がよいと思う。  ①小学校内で、盆栽コンテストのようなものがあれば、子どもや親が盆栽に対して興味が深まるのではないか。小学生の想像力で名作が生まれ、テレビや新聞で広まることになれば、様々な層で話題になると思う。  ②うどん屋など、地元以外の人がよく入る店の入り口に盆栽を置き、さりげなくアピールをすればよい。また、店内に盆栽を売っている場所を掲載したポスターなどがあれば、盆栽を見るきっかけづくりとなるのではないか。 | 本構想（案）では、①国内需要の拡大、②輸出の拡大、③産地基盤の強化、④「高松盆栽の郷」づくりの４つの基本方針に基づいて高松盆栽を振興していくこととしております。  中でも、国内需要の拡大を図るには、積極的に盆栽をＰＲすることや、盆栽に触れる機会を数多くつくる必要がございます。そのため、人の多く集まる場所でのＰＲや、若い世代の新しいアイデアなどを取り入れたＰＲ方法などをについて、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、具体的な方法などについて検討してまいりたいと存じます。 |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| ２ | 国内需要の拡大として、「盆栽初心者や興味を持たない若年層」に焦点を絞り、各種イベントの企画・実施等の支援について重点的に取組むとあるが、その具体的な振興方策は素晴らしいと考える。しかしながら、最近の若者はそのようなイベントや講座に参加しにくい。そこで、最近話題のyoutuber（ユーチューバー）に盆栽について取り上げてもらうような取り組みはどうか。 | 国内需要の拡大を図るには、盆栽初心者や興味を持たない若年層に焦点を絞った形で、盆栽のＰＲや盆栽に触れる機会をつくる必要がございます。そのため、若年層が興味を持ちやすいメディアの積極的な利用は大変重要であり、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、具体的な方法などについて検討してまいりたいと存じます。 |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| ３ | 盆栽は、他の商品と違い、商品化までに何十年、商品によっては100年以上かかり、2代、3代にわたって商品化に尽力されているという部分が施策を考えるうえで難しいところである。  ①後継者の育成は、最優先で行わなければならない。そのため、生産者・研修生ともに利用しやすい研修環境を整えることが必要。  ②高松市以外の地域で生産された盆栽の知名度も上がっていることから、メディアミックス等を活用したより多方向へのＰＲが必要だと考える。  ③盆栽の栽培の難しさのイメージを払拭し、親しみを持ってもらえるような取組が必要。 | 後継者育成につきましては、研修プログラムの作成や研修施設の整備を検討することとしており、その具体的な研修内容につきましては、後継者確保に結び付く効果的なものとなるよう検討してまいりたいと存じます。  また、高松盆栽のＰＲ方法につきましては、産地の歴史や文化、景観などに触れる機会を提供しながら、盆栽産地そのもののブランド化を図ることを基本として取り組むこととしておりまして、方法等につきましては、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、具体的な方法などについて検討してまいりたいと存じます。  また、栽培が難しいといったイメージにつきましては、栽培マニュアルの作成や、イベント等でのミニ盆栽づくりなどを行いながら、盆栽を栽培する楽しさについて周知してまいりたいと存じます。 |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| ４ | 片原町商店街のシャッター店舗の活用を図る  ①盆栽関係によりシャッターアートを作成してもらいたい。  ②空き店舗を利用した盆栽のワークショップを開催してほしい。 | 盆栽の国内需要の拡大を図るには、積極的に盆栽をＰＲすることや、盆栽に触れる機会をつくる必要がございます。そのため、人の多く集まる場所でのＰＲや、ミニ盆栽づくりなどのワークショップを開催することは、大変効果があるものと存じます。  本構想（案）では、鬼無・国分寺地区の盆栽産地そのもののブランド化を図ることを基本としており、具体的な実施方法や実施場所などにつきましては、それらを踏まえながら検討してまいりたいと存じます。 |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| ５ | 高松空港の出発ロビーやＪＲ高松駅コンコースに盆栽の展示スペースを常設し、毎日一定の時間に剪定や手入れ作業を実演することにより、ＳＮＳや口コミでの情報発信を促し、国内外の人に「興味、関心」を持っていただく。 | 盆栽の需要を拡大するには、積極的に高松盆栽をＰＲすることや、盆栽に触れる機会をつくる必要がございます。そのため、人の多く集まる空港や駅などでＰＲし、親しみを持っていただくことは、大変効果があるものと存じます。  　また、盆栽だけではなく、剪定作業などを通して盆栽職人と触れ合うことも、盆栽を知っていただくいい機会になるものと存じます。  　より多くの方が盆栽に興味や関心を持っていただく方法につきまして、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、検討を進めてまいりたいと存じます。 |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| ６ | 盆栽美術館を建設することにより  ①地元での知名度を上げる。  ②見せることに重点を置き、若い購買層を増やす。また、盆栽の良さを広めることで新たな盆栽愛好家を増やす。  ③施設をつくることにより、盆栽園よりも訪問しやすくなる。 | 本構想（案）では、盆栽園や盆栽畑等を巡るツーリズムの提供のほか、盆栽を通した国内外や地域内外の交流を促進させる機能を持つ拠点施設の整備を計画しており、高松盆栽の展示のみならず、盆栽に関する様々な情報を一元的に発信する機能も有することとしております。  　今後、「高松盆栽の郷」づくりとしての拠点施設を検討する上におきまして、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、より具体的な機能について検討を進めてまいりたいと存じます。 |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| ７ | ①「高松盆栽の郷」ではなく「高松植木と盆栽の郷」と改名してはどうか。  ②盆栽産地の歴史をきちんと踏まえることにより、根強い人気につながると思う。  （大局的に構想を練ってほしい） | 鬼無・国分寺地域では、盆栽のみならず植木も盛んに栽培されており、特に盆栽は日本有数の産地となっております。  本構想（案）では、この「盆栽」を地域特有の資源として捉え、「高松盆栽の郷」として産地そのもののブランド化を図ることを基本的な考えとしておりますことから、表題の改名は考えておりません。  また、本構想（案）では、盆栽の持つ魅力やストーリー（歴史）を、産地ブランドを確立させるための要素の1つとして捉えておりますことから、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、検討してまいりたいと存じます。 |
| № | 御意見 | 市の考え方 |
| ８ | 産地基盤を強化するため、離農者が手放す盆栽畑を新たな後継者が現れるまで共同で維持管理する組織づくりが必要である。また、盆栽畑の維持管理や管理技術の指導には、離農された方から協力を得られる体制が必要だと考える。 | 本構想（案）では、産地基盤の強化を基本方針の1つに掲げております。  盆栽生産者が減少する中、後継者の育成は重要な問題でありますが、後継者の確保と育成には時間がかかるとともに、産地基盤の維持と盆栽技術の伝承には、盆栽生産者の協力体制が必要であるものと存じます。  そのため、離農者の盆栽園を共同で管理する取組のほか、後継者の確保と育成につきましては、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、検討を進めてまいりたいと存じます。 |